

3 国連、アムネスティ、ユネスコ、IBCR、FIDH、キリスト教や創価学会など各宗教団体、～、OCHA (Orla Fagan)、DCI、CRINの対処

国連などの対処

非常識な教育が世界中の子供達に施され、その非常識な教育は次々と引き継がれてきたことが今、明らかになっている。この人類の悲劇とでも言うべき異常事態について、2010年10月、Amnesty International から「国連に報告を」との旨のアドバイスがあった。その後の状況は次の通りである。

件名: Second Fw: "Speeds comparison principle" and "Suppression case."
差出人: 長屋修 < public-commitment@st-nagaya.jp >
宛先: High Commissioner for Human Rights < sreducation@ohchr.org >
送信日時: 2010年11月17日21時34分～

> Title: Second Fw: "Speeds comparison principle" and "Suppression case."
> Dear High Commissioner for Human Rights,
> Since I'm not good at foreign languages, I can not express ... Mr. Nagaya Osamu
>
> 2010年10月中旬、
> 【世界規模の間違い <http://st-nagaya.jp/>(第一部 欠陥教育の証明)】
> の「弾圧による原理(常識)の抹殺(非常識な洗脳教育続行)」事件を報告いたしま
> したが、貴方方(国連)は黙止している様です。しかし、このままでは世界中の子
> 供達は勿論、貴方方にとっても不幸な結果となります。その為、不躰ですが下記
> の進言をさせていただきます。なお、既に何らかの対策をおとりならば、ご無礼
> のお許しと、その対策の状況をお知らせ頂きたいお願い申し上げます。
> 貴方方も上記HPの証明における非常識な教育を受けてきており、よって貴方方
> は非常識な人間です。ここで、貴方方が非常識の誹りから免れるにはHPの証明
> 事項に対する反証が必要になります。ところが、その様な反証が可能なら、HP
> に明記の私(及び学問の会)の諸言動は社会の秩序を乱す悪質な犯罪に他なく、私
> 達は処罰されています。当然、HP及び本進言も存在し得ません。つまり、かか
> る事件を黙止している貴方方は、その立場上、国際社会に対する大罪を犯してい
> るのです。ちなみに、貴方方の罪は「弾圧と洗脳教育の黙認」や「子どもの権利
> に関する条約の破壊」や「学問の発展の妨害」等に相当します。又、「非常識で
> 自照能力もない人達が国連を運営している」といった深遠な問題も浮上してくる
> でしょう。

件名: Third Fw: "Speeds comparison principle" and "Suppression case."

差出人: 長屋修 < public-commitment@st-nagaya.jp >
宛先: High Commissioner for Human Rights < sreducation@ohchr.org >
送信日時: 2010年12月11日03時19分

- > Title: Third Fw: "Speeds comparison principle" and "Suppression case."
> Dear High Commissioner for Human Rights,
> Since I'm not good at foreign languages, I can not express difficult. Please understand
> the Japanese text. Mr. Nagaya Osamu
>
> 常識の範ちゅうにある新原理の登場に伴い、世界中の子供達が非常識な教育の犠
> 牲になっていることが判明しました。しかし、貴方方(国連)は、その事実を黙止
> したのです。
> 貴方方の黙止行為は先ず、自照能力もない非常識な人間であることの自己証明に
> なっているのです。次に貴方方の黙止行為は、非常識な教育が今後も続行される
> ことの承知に他なりません。この承知は洗脳教育を意味し、次の世代へと引き継
> がれる異常事態となっているのです。それでも、貴方方が平気でいられるのは自
> 照能力もない非常識な人間だからです。
> 私は、2010年10月中旬および同年11月中旬、上記に関する証明事項や事
> 実関係を貴方方(下記宛)に報告しました。
> sreducation@ohchr.org
> urgent-action@ohchr.org
> inquiries@un.org
> 貴方方は、黙止という手段によって責任や使命を放棄、回避、否定しているので
> す。その実体を、証明事項や事実関係に基づく結果として公表します。

件名: Japanese Ministry of Justice impinges on human rights
差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先: High Commissioner for Human Rights < sreducation@ohchr.org >
送信日時: 2015年07月31日02時11分

- > Title: "Japanese Ministry of Justice impinges on human rights"
> Dear High Commissioner for Human Rights, Mr. Nagaya Osamu
> 予てより要請の件、すなわち世界中の子供達に対する人権侵害は現在、日本の法
> 務省が先鋒を務めています。その事実・証拠等は、
> <http://st-nagaya.jp/doom6.pdf> (in Japanese)
> に掲載しております。ここに再度、適切なる対処を御願ひする次第です。

件名: human rights violations against children of the world
差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先: High Commissioner for Human Rights < sreducation@ohchr.org >

Amnesty International < contactus@amnesty.org >

送信日時: 2015年08月12日02時30分

- > Title: human rights violations against children of the world
- > Dear High Commissioner for Human Rights,
- > To deal with "human rights violations against children of the world", request again.
- > And, since I'm not good at foreign languages, I can not express difficult. Please understand the Japanese text. Mr. Nagaya Osamu
- >
- > 件名：法務省が人権侵害!!
- > 学問の会は予てより、世界中の子供達に対する人権侵害および学問発展の妨害に
- > ついて日本国の法務省とも話し合ってきました。ところが、法務省が人権侵害の
- > 先鋒であることが明らかになりました。詳しくは、
- > 「世界規模の間違い <http://st-nagaya.jp/> (特に項8の悪の枢軸 法務省)」を御覧
- > ください。
- > 上記の法務省の人権侵害は、いわば「日本国の思想の根底に潜む不気味なもの」
- > の姿です。つまり、世界中の子供達に対する人権侵害および学問発展の妨害の事
- > 件において、法務省の権力行使は国際社会への挑戦です。これは、世界に向けて
- > 語るべき真実であり、国連はどの様に扱うのでしょうか …。

件名: 使命・責任・人道
差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先:

- 国連人権高等弁務官事務所 < sreducation@ohchr.org >
- 国連人権高等弁務官事務所 < urgent-action@ohchr.org >
- 国連 < inquiries@un.org >
- ユニセフ Innocenti Research Centre < florence@unicef.org >
- ユネスコ < <http://en.unesco.org/feedback/contact-us> >
- 国連人権高等弁務官事務所 < InfoDesk@ohchr.org >
- 子どもの権利委員会 < crc@ohchr.org >
- 国連人道問題調整事務所 < fagano@un.org >
- 国連日本政府代表部 < japan.mission@dn.mofa.go.jp >
- 国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸事務所 < ocha-kobe@un.org >
- 公益財団法人日本ユニセフ協会 < webmaster@unicef.or.jp >
- 国連広報センター所長 山下真理 < unic.tokyo@unic.org >
- UNICEF東京事務所 < tokyo@unicef.org >
- UNICEF東京事務所 < uniceftokyo.fb@gmail.com >
- UNICEF東京事務所 < <https://www.facebook.com/unicef.tokyo.office> >
- 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 < <https://www.unesco.or.jp/inquiry/> >

- ・国連大学 < <http://jp.unu.edu/about/contact-us#overview> >
- ・日本ユネスコ国内委員会事務局国際統括官付 < jpnatcom@mext.go.jp >
- ・国連大学上級副学長 武内和彦 < takeuchi@unu.edu >

送信日時: 2015年11月18日19時25分～

- > **To whom it may concern,**
- > (Because I am weak in English, let me talk in Japanese.)
- > From Mr. Nagaya Osamu,
- > 下記の事件につきまして貴方方の御活動を御願い致します。
- > 件名： 使命・責任・人道
- > 「速さを比較するには運動の指標（ゴールもしくはスタート地点等）を一つに限
- > 定しておかなければならない」および「光をジグザグに折り曲げるには鏡など反
- > 射物が必要」という経験事実や認識は Galilei の相対性原理や Einstein の相対論を
- > 完全に破壊するものです。ところが、Japan (Ministry of Justice) は教育の場からこ
- > れら事実を抹殺したのです。この事実は "Human rights violations of Japan to
- > children of all over the world" に他なりません。詳細につきましては、
- > <http://st-nagaya.jp/>
- > の特に項8～項9を御覧ください。なお、大学当局は"right to know（学生にとつ
- > て最重要事項）"を尊重し、このメールを学生達へ十分に開示して下さい。宜し
- > く御願い致します。
- > 貴方方は、かかる日本国の蛮行を容認しますか…。現状は科学文明の破壊どころ
- > か、「考え方と言動」という意味において、人類は宇宙の許されざる存在となっ
- > ているのです。
- > ※天網恢恢疎にして漏らさず（悪逆・悪道）。

件名： 使命・責任・人道
差出人： 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先： ○○○

送信日時: 2016年05月11日～

- > 件名： 使命・責任・人道
- > 関係各位
- > 日本国法務省の「人権擁護」についての“内心”は真逆です。実際、その内心が
- > 「世界中の子供達に対する人権侵害」という形で表面化しました。本事件に関す
- > る証拠は多数あります。詳しくは、
- > 【世界規模の間違い（特に悪の枢軸法務省の項） <http://st-nagaya.jp/>】
- > を御覧ください。
- > 貴方方に、重ねて御願い致します。御自身の使命を果たして下さい（法務省の
- > 蛮行の糾弾）。

OCHA (国連人道問題調整事務所) Orla Faganの対処

※件名: Re: 使命・責任・人道
差出人: 国連人道問題調整事務所 Orla Fagan < fagano@un.org >
宛先: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
Cc:
• Akiko Yoshida < yoshidaa@un.org >
• Kristen Knutson < knutson@un.org >

送信日時: 2016年01月15日18時06分

> Dear Nagayasan
> Forwarding to the Manila office who should be able to assist.
> Akiko can you liaise with Kristen please.
> Many thanks.
> Orla
> Sent from my iPad
>
> *** 長屋からの送信メールの複写につき省略 ***

Defence for Children International (DCI) の対処

件名: human rights violations against children of the world
差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先: Defence for Children International < info@defenceforchildren.org >
送信日時: 2015年08月13日22時28分～

> Title: human rights violations against children of the world
> Dear Defence for Children International
> To deal with "human rights violations against children of the world", request again.
> And, since I'm not good at foreign languages, I can not express difficult. Please under-
> stand the Japanese text.

Mr. Nagaya Osamu,

> 件名：法務省が人権侵害!!
> 学問の会は予てより、世界中の子供達に対する人権侵害および学問発展の妨害に
> ついて日本国の法務省とも話し合ってきました。ところが、法務省が人権侵害の
> 先鋒であることが明らかになりました。詳しくは、
> 「世界規模の間違い <http://st-nagaya.jp/> (特に項8の悪の枢軸 法務省)」を御覧
> ください。

- > 上記の法務省の人権侵害は、いわば「日本国の思想の根底に潜む不気味なもの」
- > の姿です。つまり、世界中の子供達に対する人権侵害および学問発展の妨害の事
- > 件において、法務省の権力行使は国際社会への挑戦です。これは、世界に向けて
- > 語るべき真実であり、DCIはどの様に扱うのでしょうか …。

※件名: RE: human rights violations against children of the world

差出人: Program Assistant DCI | Johan Vigne
< johan.vigne@defenceforchildren.org >

宛先: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >

Cc: 福田雅章 < fukuda-masa@rio.odn.ne.jp >

送信日時: 2015年08月13日22時33分

- > Dear Mr Nagaya,
- > Please contact directly our section in Japan:
- > DCI-Japan
- > Contact: Mr.Masaaki FUKUDA
- > 1-14-3 Miyamae, Suginami-ku,Tokyo, Japan 168-0081
- > Phone: [81] (0)90-4061-5100
- > Fax: [81] (0)3-5941-9560
- > e-mail: fukuda-masa@rio.odn.ne.jp
- > Best,
- > Johan Vigne
- > Program Assistant - Advocacy and Outreach
- > D logo small 2
- > Defence for Children International (DCI),
- > 1, Rue de Varembé, P.O. Box 88, CH1211 Geneva 20
- > E: johan.vigne@defenceforchildren.org T: +41 (0)22 734 0558
- > W: www.defenceforchildren.org Skype: dci-is
- > Follow us: facebook 1349422306_facebook twitter 1349422543_twitter
- > linkedin 1349422509_linkedin
- > Support: Campaign_Logo_short_for use 2015 mail2
- > Please consider the environment before printing this email.
- > *** 省略 ***

件名: RE: human rights violations against children of the world

差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >

宛先: DCI日本 < fukuda-masa@rio.odn.ne.jp >

送信日時: 2015年08月17日00時29分

- > DCI日本の福田雅章 様

- > はじめまして、DCI本部のProgram Assistant - Advocacy and Outreach, Johan Vigne
- > 様に御案内を頂きました学問の会の長屋修です。
- >
- > 簡単に再度、事件の内容を述べておきます。日本の法務省が、「世界中の子供達
- > への人権侵害」「学問発展の妨害」「国際社会の秩序破壊」の先鋒に立っている
- > という世界に対して語るべき真実です。お手数でしょうが詳細は、
- > 【世界規模の間違い <http://st-nagaya.jp/>】を御覧ください。尚、項8 [悪の枢軸
- > 法務省]を先に御覧いただきますと、本事件の異常かつ重要性が御理解いただけ
- > ると思います。世界中の悲劇の子供達（人類の将来）の為に力添えの程、宜し
- > くお願い致します。

件名: 使命・責任・人道
差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >
宛先: Defence for Children International (DCI日本等も含む)
< <http://www.defenceforchildren.org/contact-us/> >
< info@defenceforchildren.org >

送信日時: 2015年03月16日16時22分

- > To whom it may concern,
- > (Because I am weak in English, let me talk in Japanese.)
- > From Mr. Nagaya Osamu,
- > 下記の事件につきまして貴方方の御活動を御願い致します。
- > 件名: 使命・責任・人道
- > 「速さを比較するには運動の指標（ゴールもしくはスタート地点等）を一つに限
- > 定しておかなければならない」および「光をジグザグに折り曲げるには鏡など反
- > 射物が必要」という経験事実や認識はGalileiの相対性原理やEinsteinの相対論を
- > 完全に破壊するものです。ところが、Japan (Ministry of Justice)は教育の場からこ
- > れら事実を抹殺したのです。この事実は"Human rights violations of Japan to
- > children of all over the world"に他なりません。詳細につきましては、
- > <http://st-nagaya.jp/>
- > の特に項8～項9を御覧ください。なお、大学当局は"right to know（学生にとっ
- > て最重要事項）"を尊重し、このメールを学生達へ十分に開示して下さい。宜し
- > く御願い致します。
- > 貴方方は、かかる日本国の蛮行を容認しますか…。現状は科学文明の破壊どころ
- > か、「考え方と言動」という意味において、人類は宇宙の許されざる存在となっ
- > ているのです。
- > ※【数の原理的本質および0の正体】を項10の末尾に追記しました。この追記は
- > 世界共通の概念・認識に関する重要事項ですから是非、御覧ください。

子どもの権利の情報ネットワーク (CRIN) の対処

※件名: Re: 使命・責任・人道

差出人: 子どもの権利の情報ネットワーク (CRIN) < info@crin.org >

宛先: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >

送信日時: 2016年05月11日21時02分

- > Dear Osamu,
 - > Thank you for contacting CRIN.
 - > Please can you send us further information about your request (if possible in English)
 - > but we can manage in Japanese.
 - > the CRIN team
 - >
 - > Child Rights International Network (CRIN)
 - > The Foundry
 - > 17 Oval Way
 - > London
 - > SE11 5RR
 - > United Kingdom
 - >
 - > T: ■■■
 - > W: www.crin.org
 - > Twitter: ■■■
-

Child Rights International Network (CRIN) 各位

拝復 皆様にはますますご活躍のことと存じます。

さて、早速の御連絡有り難うございます。それから、私は日本語しか出来ませんのでお許し下さい。

御指示いただいた件につきましては、「世界中の子供達に対する人権侵害（洗脳教育）」に関する証拠書類の写しを同封いたしましたので、宜しくお取り扱いの程、御願ひ致します。

敬具

2016年5月17日

長屋 修

各証拠は省略

※証拠ロ、追加証拠A、証拠ハ、証拠ニにおける状況（長屋修の新教育の全面支持）とは証拠へ以降における状況（弾圧に拠る新教育の禁止）が逆転していることに注意せよ。

各証拠は省略

※速さを比較するときは、ゴール（運動の指標）を一つにしなければならない。
この事実については、子供達も十分に知っているところの世界共通の概念・認識かつ宇宙の仕組み（速度比較の原理）である。しかし、この子供達の認識を従来の教育は破壊している（相対性原理や相対論、流水算など）。従って、権力のゴリ押しに拠る従来の教育の続行は、世界中の子供達の人権を侵害していることは自明。

各証拠は省略

※学問の会の面々は日本の一国民である為、如何に正しい主張を行おうとも国家権力には到底、かなわない。よって、日本の国家権力のゴリ押しが出来ない国際社会（子供の権利条約）に本事件の解決を委ねる他なし。

※件名: Papers sent to CRIN

差出人: 子どもの権利の情報ネットワーク (CRIN) < info@crin.org >

宛先: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >

送信日時: 2016年06月16日18時21分

> Dear Osamu,
> CRIN received an envelope of papers from you that were sent to our London office.
> We have no Japanese speakers in our office unfortunately. Please could you send
> some information on my why you sent us the information and what the content of
> the information.
> I am hoping to share it with a Japanese speaker in the very near future but your
> support on this would be very helpful.
> Best wishes,
> the CRIN team
> Child Rights International Network (CRIN)
> The Foundry
> 17 Oval Way
> London
> SE11 5RR
> United Kingdom
>
> T: ■■■
> W: www.crin.org
> Twitter: ■■■

件名: Re: Papers sent to CRIN = 【子どもの権利条約】

差出人: 長屋修 < standard@st-nagaya.jp >

宛先: 子どもの権利の情報ネットワーク (CRIN) < info@crin.org >

送信日時: 2016年06月19日19時49分

> CRIN 各位

> 証拠書類が多く、皆様のお手を煩わせていると思いますので、本事件の要点を以
> 下に述べておきます。

>

> 国や地域、言葉、文化、宗教、習慣等にかかわらず、速さを比較するときゴール
> を一つに限定することは、遠い昔からの世界共通の概念・認識です。勿論、この
> 概念・認識は子供達も十分に持っています。ところが学校では、かかる世界中の
> 子供達の概念・認識を否定する教育を行っているのです。すなわち、前者（教育
> 以前の子供達の概念・認識）と、後者（学校の教育の内容）は矛盾しているとい
> う訳です。もし、世界中の子供達の概念・認識と一致する教育が行われていたな
> らば、本事件は起きていません。

> 学問の会は上記の矛盾の解消に努めましたが、とどのつまり、法務省が出張って
> きて「学問の会の主張の全てが分からないと判断した」という理由!?!で一蹴され
> てしまいました。残念ながら、学問の会の面々は日本の一国民にすぎない為、法
> 務省の権力行使には到底かないません。この日本国法務省の蛮行は世界中の子供
> 達に対する人権侵害に他なりません。よって、国際社会へ世界中の悲劇の子供達
> の救済を御願ひする次第となりました。宜しく御願ひ致します。

>

2016年6月19日

>

長屋 修

追記

従来の教育が間違っていることを、日本語ウィキペディア百科事典 (Wikimedia Foundation) で確認してみよう。例えば、「物理学」「数学」「教育」などを調べてみると、そこには太文字で、

【この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です】
という断り書きが張り付けられている (関連事項30件以上あり)。

※ 本事件は学術論争の類いではない。子供達が十分に知っている日常生活の規範に反する教育を、教育委員会の弾圧や法務省の不法な権力行使によって続行している事件である (子供達を見殺しにするのは虐待行為と同様 2017年1月)。

[目次へ戻る Turn to the table of contents](#)

[4 洗脳教育と日本の対応へ](#)